



発行 明治大学マスコミクラブ  
 〒101-8301  
 東京都千代田区神田駿河台1-1  
 明治大学広報課内 MMC事務局  
 電話 03-3296-4082  
 FAX 03-3296-4087  
 e-mail: mmc@meiji-mmc.sakura.ne.jp  
 発行人 斎藤 柳光  
 編集 馬淵 豊・梶野 雅秀

今年から社会人1年目で、MMC事務局でお世話になる事になりました。圭三プロダクションの小野友己と申します。どうぞこれから宜しくお願い致します。

さて、去る4月23日(金)に第1回MMCサロンが開催されました。初めての催しであり、事務局の一員としては期待と不安が入り混じっており、女性が含め幅広い年齢層の32名も皆様の参加を頂きました。ご参加頂いた皆様、誠に有難う御座いました。



**新企画、会員・同窓の情報交換会 第二回「MMCサロン」開催**

MMCでは、かねてより会員に向けた交流の場を広げようとして新企画を検討してまいりましたが、この度、より自由に、気楽に集い合える情報交換の場「MMCサロン」を立ち上げ、第1回目を開催致しました。MMCのマスコミ講座修了生で、今年、新社会人としてスタートを始めた小野友己君からサロン参加の感想を寄せていただきました。

第1回はMMC会員の想いの場でもある「アミ」で開かれ、和気あいあいのムードの中進んでいきました。参加された皆様方は初めてお会いしたというケースが多く、名刺交換をはじめ、お酒を共にして交友を深めていってました。また、開催時間中は出席者の出入りが自由なので、とても開放的な雰囲気でした。そのため仕事終わりに軽く1時間でも、という気楽な気持ちで参加できると思います。

私は、このサロンは特に若年層の皆様が有効な場ではないかと思えます。同じマスコミ業界でも業種が違う先輩方とお知り合いになり、お話を聞けるというのは、これから層仕事を発展させていくためにも幅を広げる大きなチャンスだと思えます。また同じ年代の方とお知り合いになることにより、交友関係も広がり、同じ悩みを持つ方々などは解消できるかもしれません。

既に業界で活躍されている先輩の皆様、私を含めまして若年層の方々に、どうぞ多

富塚三夫元衆議院議員(MMC会員)がポーランド共和国から功労勲章を受章

富塚三夫元衆議院議員(MMC会員)がポーランド共和国から功労勲章を受章。富塚三夫元衆議院議員(MMC会員)がポーランド共和国から功労勲章を受章。富塚三夫元衆議院議員(MMC会員)がポーランド共和国から功労勲章を受章。



MMCの前身の一つである明大マスコミ時代から有力メンバーだった富塚三夫さん(元衆議院議員)が、平成21年8月、ポーランド共和国十字功労勲章を受章された。

富塚三夫さんは、元衆議院議員として、長年にわたって政治界で活躍された。富塚三夫さんは、元衆議院議員として、長年にわたって政治界で活躍された。

**武内裕杯観戦「ト」へ報告**

今年も暖冬で開花が異常に早いと思われたが、開催日の一週間前から寒さが戻り、開花がストップ、相模名物の桜が見られず残念な結果となった。

**久々出場の泊氏、初優勝**

広告会社は今や構造不況業種。収益確保に大変だ。その所為かどうかわからないが、博報堂の泊氏はしばらく不参加が続いていた。無欲の勝利か、久々の出場でも、初優勝を遂げ、武内裕氏の優勝杯を獲得した。

**進境著しい大林氏**

最近は大林氏が若手(?)を代表し毎回参加している。さて成績はというとデビューかメーカーの常連となっていたが、今回は仕事に就活セ

**参加者大募集**

次回は恒例秋のコンパです。是非皆さまの参加をお待ちしています。  
 (申込連絡先:090-2247-1121)

順位	氏名	アウト	イン	グロス	ハンデ	ネット
優勝	泊三夫	43	49	92	21.2	70.8
2位	佐々木共成	42	42	84	12.8	73.6
3位	林光憲	45	45	90	16.4	73.6
4位	久保田晃平	50	52	102	27.2	74.8
5位	齋藤柳光	52	52	104	28.4	75.6
6位	山田祐司	52	55	107	30.8	76.2
7位	堀威夫	48	51	99	22.4	76.6
8位	柳都太郎	49	48	97	20.0	77.0
9位	大林龍彦	51	53	104	26.0	78.0
10位	大西敬勝	47	50	97	18.8	78.2
11位	中根重	51	49	100	18.8	81.2
12位	千田正徳	60	54	114	30.8	83.2
BB	木元尚男	55	48	103	18.8	84.2
BM	野村正臣	61	69	130	40.0	90.0

今回の受章もポーランドの共産主義崩壊20周年、日ポ国交90周年を記念したものといえます。

「受章の知らせが届いたのが奇しくも2月27日の80歳の誕生日。しかも、70歳になったときから、五木寛之氏の『大河の一滴』に感銘して書き始めた原稿を書き終えたその日でした。先ごろ、自費出版されたその『本の道』には、まさにあふれ出る紫紺魂そのままに「独立自治」「権利自由」に生き抜いた波乱万丈の人生が綴られています。

**MMC近況**

他団体の交流が活発化

5月25日、日頃交流を深めている「全国紫明クラブ」(異業種の交流会)様の創立15周年記念会に阿部、本村副会長と事務局柳沢が参加しました。この会は、2ヶ月に1回会合を開催し会員の交流を深めています。

**建設・不動産聯合会との交流**

一方、5月27日には「建設・不動産聯合会」(建設、不動産業中心の交流会)様の総会に斎藤会長、阿部、本村副会長が参加しました。この会は、毎月会合と見学旅行会、勉強会等開催しています。今後共催企画等も検討します。

柳沢克行(78年・政経)

**6月10日 2010MMCフォーラム**

フォーラムのテーマについて、年初から常任理事会で議論を重ねました。その中で、マスコミ業界を中心とした業界で働く、私たちMMCのメンバーの最大の関心事である「激変するマスメディア環境の中で何が起きているのか」を真正面からとらえ、シリーズ化しようということになりました。

第1回の講師の人選については、松永常任理事(NTV)などから推薦のあった、今年3月から全国紙の先陣を切って、本格的な電子新聞として有料化に踏み切った「日経新聞電子版」の関係者を呼ぼうということになりました。その講師の交渉については理事の日経新聞服部さんの力をお借りし「電子版」の創刊に関わられた、株日本経済新聞デジタルメディア常務の徳田深様にお引き受け頂きました。

当日午後6時30分、駿河台の学生会館第1会議室は、50席用意された会場が満席に近い状態で、マスコミ関係者からの注目度の高さが窺えました。徳田さんのお話は、電子版創刊の狙いや戦略から始まり、実際

**「激変するマスメディア環境」第1回報告**

フォーラムのテーマについて、年初から常任理事会で議論を重ねました。その中で、マスコミ業界を中心とした業界で働く、私たちMMCのメンバーの最大の関心事である「激変するマスメディア環境の中で何が起きているのか」を真正面からとらえ、シリーズ化しようということになりました。

第1回の講師の人選については、松永常任理事(NTV)などから推薦のあった、今年3月から全国紙の先陣を切って、本格的な電子新聞として有料化に踏み切った「日経新聞電子版」の関係者を呼ぼうということになりました。その講師の交渉については理事の日経新聞服部さんの力をお借りし「電子版」の創刊に関わられた、株日本経済新聞デジタルメディア常務の徳田深様にお引き受け頂きました。

当日午後6時30分、駿河台の学生会館第1会議室は、50席用意された会場が満席に近い状態で、マスコミ関係者からの注目度の高さが窺えました。徳田さんのお話は、電子版創刊の狙いや戦略から始まり、実際

**過去最多の177人！ 2010年新年総会・懇親会**

新年総会・懇親会が1月29日、リパティタワー23階「燦・紫紺」で開かれました。総会では斎藤会長を議長とし、本村副会長から09年の活動報告と規約の部改定(常勤顧問の人数、役務の明文化等)と活動方針が示され、会計報告とともに満場一致で承認されました。

懇親会では、長堀守弘理事長、納谷廣美学長、向殿政男校友会会長などに激励のご挨拶を賜り、このほど新入会員となつた衆議院議員田中美絵子氏(民主党・北信越比例区)もエールを送ってくれました。

そして、ゲストに箱根駅伝連続シード権を得た松本稜競走部部长(商学部教授、全日本大学選手権を51年ぶりに制したサッカー部の神川明彦監督(法学部事務室)のお二人を迎え、日本テレビの松永三男常任理事がインタビュー。参加者全員が紫紺魂がいやが上にも燃え上がりました。



**年会費納入のお願い**

MMCは、明治大学からマスコミ界に進んだ皆さまの職域交友活動です。自主運営により、会員の意欲と皆さまの年会費が原動力となっております。恐れ入りますが、未納の方は左記の口座にお振込みください。よろしくお願い致します。

【郵便振替】  
 口座記号番号  
 00190・4・762631  
 加入者名  
 明治大学マスコミクラブ  
 【銀行振込】  
 みずほ銀行 九段支店  
 (普通口座番号)：1694508  
 口座名義  
 明治大学マスコミクラブ

**〈訃報〉**

吉川顧問が帰らぬ人に  
 吉川英司顧問が4月8日、慢性閉塞性肺疾患で亡くなりました。

1933(昭和8)年政経学部卒。80才。明大マスコミ会初代会長として尽力されました。明治大学OBマスコミ人のリーダーの一人で、MMCでは顧問としてご指導いただきました。元ニッポン放送常務フジテレビ専務、テレビ新広島社長などを歴任、98(平成10)年には従四位の叙勲を受けておられます。謹んでお悔やみ申し上げます。



### 希望の鍵を後輩諸君へ！ 2010年度マスコミ講座開講

MMCマスコミ講座も今年度四年目を迎えて昨年より更に充実した授業をスタートすることができました。厳しい就活状況は変わりませんが、講師一丸となって学生達に希望の鍵を渡していきたいと思えます。

#### ●一般職コース

今年度入講した学生は一般職コースは77名、いずれもMMC主催の就職セミナーを受けて選抜試験を受けての受講生です。

今年度の特徴は、毎週火曜日と木曜日にそれぞれグループ担任制度をもうけ、学生達も月木それぞれ本籍地として重点的に授業に参加していただきます。それでも、月木、両方に出席する熱心な学生も多いためです。

内容的には、今年も本講座の名物になりつつある作文基礎講座といわれる「自分史」を作る自己分析年表作成ワイ



2010年度開講式(6月11日)

クシヨブからスタート。更に5名のレギュラー講師陣に加えて、読売新聞記者の吉田氏や今年映画監督デビューしたテレビマンユニオンの守屋氏など多彩なゲスト講師を迎え、様々な観点から就活に必要な基礎情報を伝えていただきます。

また後期からは日経服部氏による新聞講座も開講、ますます充実する予定です。さらに、エンターテインメントの書き方、グループディスカッション、模擬面接、企画の立て方など、ありとあらゆる就活に出る実践対策を用意しています。今年も読売新聞西部本社やJコムソフトバンク、IBM他様々

な大手に合格者を出していますが一年上の三期生はまだまだ最終選考で戦っています。その責任を重く感じつつもエールを送り、今年の受講生に熱いメッセージを伝えていきたいと思えます。

大林 龍彦(78年・政経)



恒例となった「自分史」講座

#### ●アナウンサーコース 2009年度を振り返って

18名の学生が6月17日、10月7日まで、15回に渉って参加しました。後半は10名くらいに参加メンバーが減りましたが、この10名の皆さんの「アナウンサーになりたい」という強い意欲が講師の心を動かした。12月の7日、11日(全5日の5日間、今回初めて、「短期集中講座」を追加開催しました。これを入れて、合計20回に渉ってのアナ講座は、5人の講師が日程を調整しながらやりくりし実現しました。また外部講師の講座として、今年もNHK試験対策講座を1日設け、「実際NHKが求めるアナ



2010年度アナウンサーコース講義スタート

ウンサー像」の具体的なアドバイスを、NHKの方に伺いました。MMCの講座内容は、基本発声からニュース読み、フリートーク、VTR実習、自己PRなどといったもの中身ですが、最後まで残った学生が「自分の夢のために、打ち込んでいく真摯な態度」を見ていると、講師である我々OB/OGも大変、刺激を受けます。「学生時代に何かに、打ち込んで、とことん自分を追い込むこと」の大切さを、学生が少しずつ理解してきたような気がします。

「アナウンサーになるのは、確かに狭き門です。しかし、必ず誰かがアナウンサーとして合格しています。学生諸君は、夢を諦めず、入念に作戦を立てて、戦いの場に臨んで欲しいと思います。その時に、MMCの我々が挑戦する学生」の皆さんの背中を、押しやりやす。思い切って、勝負してください。」(MMCアナ講座事務局)

### 内定者ひとりインタビュー

文学部4年  
出水 翔太郎(読売新聞社内定)



「人を楽しませる仕事が出来たい」と思えば私の軸はそこでありました。その軸に辿り付くまでの引き出しを開ける作業を、MMCの先輩方には沢山手伝って頂きまして。皆さんも自分を信じて、時に背中を押して貰いつ、精一杯頑張ってください。皆さんの事を待つている会社があります。」

商学部4年  
清水 里紗(全日空内定)



業界の第一線で活躍されている講師の方々に指導いただける講座は、知識ゼロの私にとって日々刺激的でした。また、早くからESの書き方を習い、後の就職活動に「時間」と「心」の余裕ができたことは言うまでもありません。今の私があるのもMMCのおかげです。ありがとうございました。」

法学部4年  
久保 重利(メガハウス内定)



「人を楽しませる仕事が出来たい」と思えば私の軸はそこでありました。その軸に辿り付くまでの引き出しを開ける作業を、MMCの先輩方には沢山手伝って頂きまして。皆さんも自分を信じて、時に背中を押して貰いつ、精一杯頑張ってください。皆さんの事を待つている会社があります。」

法学部4年  
遠山 哲央(中日新聞社内定)



講座では有益な情報を提供されます。この情報をどう生かすかが重要でした。自分なりに考え、仲間同士で勉強会をしました。また先輩方に親身に、時には厳しくご指導していただきました。やる気になり、励まされました。先輩方の存在なしにこの結果は考えられず、感謝しております。」

#### 入社奮闘記

大城 蘭(09年政経卒)  
琉球放送入社2年目現場からの報告。



琉球放送に入社して1年がたちました。2年目早々、ラジオでは2時間生放送のワイド番組を、テレビでは映画情報番組を担当することになり、今年度はまた1年目とは違った挑戦の1年となっております。

最近の街中で「あなたのニュースは安心して聞いていただけるわ」と嬉しいう声をかけてくださる方も増え、決して完璧とは言えないながらも、日々成長している自分がいることを実感しています。

沖縄県は他県に比べ、ラジオの果たす役割が大きいという現状があります。「音」だけで物事を伝えるにあたってしゃべり手に求められるのは幅広い表現力。今後はこの表現力もさらに磨いていきたいと考えています。

最後にMMCでマスコミ就職を目指している皆さん。就職活動において大切なのは「決して揺るがない信念」です。MMCには大変素晴らしい講師の方々がたくさんいらっしゃいます。講師の方々への感謝の気持ちを教わり、必ず夢をつかんでください。応援しています。

#### 就活奮闘記

農学部4年・鈴木 博之  
(ドリマックステレビジョン内定)



こんなにもワクワクした1年は他にはない。周りの友人から、「目が輝いているよ」と言われ、そんな私の目を輝かせてくれたのは、MMCだった。

2009年5月、衝撃的な出会いのMMCセミナー。授業の始まりは、馬鹿みたいに緊張していた。しかしMMCの講師の方々の言葉一つ一つに胸を熱くさせられ、マスコミへの想いは日に日に強くなっていった。

就活中、最終で5社落とした。本当に辛かった。それでも、私には自信があった。MMCで学んできたことや、講師との繋がりは、他大学のマスコミを目指す学生には負けない経験だと思っていたからだ。結果的に、自分の一番やりたかったドラマに携われる企業に内定を頂くことができた。MMCには、本当に感謝しても尽きせない。

内定後、MMCの講師の方々から祝福の言葉を頂いた。今では「おめでとう」を何回聞き、「ありがとう」を何回言っただろうか。その言葉の数だけMMCの支えがあった。来年から全力で働いていくことが、何よりの恩返しだと思っている。

### アオサイに魅せられて

MMCC副会長 馬淵 豊(56年文・テレビ東京OB)  
少年老いやすく学成り難し。一寸の光陰軽んずべからず。  
Chaonann(チャオアイン)こんにちは。Tooi(トイ)私にはHCM(ホーチミン)に滞在中の馬淵です。

た。そして、93年、荒唐から立ち上がるベトナムを訪れた私は、再びストレイトチルドレンを取材した。なんとベトナムとの因縁は、馬淵にとつて45年の歳月を経たことになる。「なんとなくやってみるか。軽い気持ちで嫌ではない教師」といつか職業志士だけに、日本とベトナムの文化使節が果たせるならばこれ以上のことはない、ベトナムに半ば腰を据えてしまった。



#### 日本語学校で教師に

少しもベトナム語を理解せぬまま、「頼むよ」と村山富市元総理の一声で、ホーチミン市ルクイドン高校に併設された「村山日本語学校」の日本語教師を委嘱され、ボランティアのまま取りあえず赴任してしまっただ。

1965年、ベトナム戦争の渦中、米軍はダナンに上陸、枯れ葉作戦に入った。私は、テレビ東京の報道に係わり取材。この「奇妙な戦い」を放送し

#### 魂ここに発揮せりつ、といった感じである。

「人を楽しませる仕事が出来たい」と思えば私の軸はそこでありました。その軸に辿り付くまでの引き出しを開ける作業を、MMCの先輩方には沢山手伝って頂きまして。皆さんも自分を信じて、時に背中を押して貰いつ、精一杯頑張ってください。皆さんの事を待つている会社があります。」

#### 明治大学に教え子

日本語を学ぶベトナム人は、実際に日本人同士の会話聞き取れるようになりたい、自然な日本語が話せるようになりたいという要望が強い。5月の半ば、日本語のスピーチコンテストがホーチミン市で応募69人から選ばれた12人が参加して開かれた。聞いてみるに、確かに流暢な日本語で淀みなくスピーチ、日本人顔負けだった。けれども、各人にそれぞれ質問が出されたところ、やはり話し言葉が聞き取れず苦しむスピーカーがいた。

現在、ベトナムにおける日本語熱は急速に高まり、4万人もの人が勉強し始めているといわれる。アジアの時代、ベトナムは中国を追い越そうとしている。ホーチミン市はビルラッシュ。所得格差は都市と地方で拡がっている。だが、この日本語熱を受け入れられた日本には問題が多い。それだけに、母校明治大学が今後多くのベトナム留学生の受け入れ、国際化の波に立ち遅れることないよう祈っている。

#### 向殿校友会長らに随行ベトナムとシンガポールで支部立ち上げ

明治大学校友会の向殿政男校友会長と中村義幸副会長、そして校友課の責任者である大野友和経営企画部長は4月初旬、ベトナムとシンガポールを訪れ、それぞれの地における海外校友の支部立ち上げに立ち会った。この案内役を今回のベトナム行きに合わせて馬淵が行った。

向殿会長は、「今回は中国の上海、タイのバンコクなどに続く海外の居住校友、駐在員校友の組織化である。来年2011年は明治大学130周年。校友会もこの機に記念事業で世界を結ぶ紫紺NETというインターネット網を立ち上げます。この力強い向殿体制によって校友活動のグローバル化が遂に進みそう。大いに期待したい。フィナレは校歌と二気呑み。あらためて「故郷(明治大学)は遠くにおいて思うもの」の感に酔った。(平成22年6月末記)